

3・11から1年 「人間らしい生活、原発ゼロ・省エネ社会への 第一歩を」

－4月17日原発ミニ学習会の報告－



安全神話が崩壊し、史上最悪の福島原発事故は、事故に至った原因も明確になっていません。

また放射能の汚染は広範囲に拡散しています。はっきりしているのは、人間が技術的にコントロールできず、使用済み燃料の再処理もできないという事実です。

そんな中でも、政府は関西電力大飯原発の再稼働をさせようとしています。

ドイツ、イタリア、スイスでは国民的議論のもと原発ゼロの社会をめざす決断をしています。

少しでも真実や問題点を知る機会として東電OBの鈴木章治さん（労働総研会員）からお話をうかがいました。

＝学習会の内容から＝

1、アメリカ依存のエネルギー政策

日本のエネルギー経済、技術発展の状況で、危険を伴う原発をつくる必要がない中、「安くて安全」「石油にとって変わる国産エネルギー」などを理由にアメリカから持ち込まれた。

2、安全神話への反省なし

原発史上最悪・最大の事故で三つの原子炉がメルトダウン・スルー。崩壊熱、冷却が止まれば再臨界の危険がある中、政府と東電は冷温停止が維持できたと砂上の収束宣言をしている。

終末時計は福島原発事故について「核の平和利用であっても対応を間違えれば人類への脅威となりかねない」と残り時間を1分進め残り5分と発表した。

3、原発なしの社会めざして

政府、関西電力は夏の電力需要が不足するとして大飯原発の再稼働を主張しているが、全ての供給力と需要想定の情報公開が必要。原発なしの電力維持は様々な方法で可能。脱原発のエネルギー政策が必要。

4、人と技術が生かされ、労働者の人権と生活が守られてこそ企業経営

現場で、必死に復旧作業に取り組んでいる労働者への大幅賃金切り下げ、人員削減で意欲、モチベーションを低下させている、OBへの年金減額も含め責任転嫁のあり方は問題がある。

＝参加者の感想から（28名の方が参加）＝

○とてもわかりやすく勉強になりました。根っこはJALの構造と全く同じだと思います。

私は伊方原発の原告になっていますが、もっともつとその輪を広げ、正しい情報を提供するとともに、みんなで考え行動する力を結集して行かなければと思いました。「無知は悪、沈黙は同罪」

○消費するための発電は要りません。経済発展の結果が人を苦しめている現状、何が大切かを多くの人の犠牲のもとに教えられたはずですが、なぜ原発の再稼働につながるのか。さよなら原発、さよなら馬鹿な政治家。・・・と心から思いました。ありがとうございました。

○原発問題の中心点、解決の方向性を系統的に話していただき疑問点が大部分整理できました。やはり、人に話して行く上で事実を知ることが大事でマスコミ情報が未だに事実を報道しないのに腹が立つ。対米従属、大企業本位の政治経済のしくみそのものが本当に深刻だと感じました。

○沢山の資料を基に、有益なお話を聞かせていただきありがとうございました。

脱原発の社会を創っていかなければならないと思うが、現在の電力会社は自然エネルギー利用に消極的になっていると思う。もう少し自然エネルギー利用の可能性を追求して行くべきと思う。

○原発の歴史やしきみ、また、福島事故後の原発に対する社会の動き、将来のエネルギー供給など、マスコミ報道だけでは知ることのできない情報に接する機会ができ、大いに勉強になりました。

退職後は社会との接点が少なくなっていますので、このような勉強会を開いていただけると大変助かります。どうもありがとうございました。

○原発が無くても生産、暮らしは大丈夫という点がある程度理解できた。（不安をあおる需給数字）しかし、判断がつかないほど複雑に感じた。

国、電力会社の発表に疑問を持っていたが、その通りであった。

○冷温停止状態とは冷却機能が正常状態での言葉であって仮説機能では冷温停止状態とは言えないと言う説明が大変わかりやすく政府の意向がよくわかりました。

○もし安全なら、都心から遙かに離れた場所に原発を建設して、高いコストをかけて送電設備をつくり都心に電気を送る無駄なことをせず、都心近くに建設すればいいのですから、素人からみても安全が保障されていないことは一目瞭然です。今日のお話から原発問題を考える沢山のヒントをいただきました。ありがとうございます。